

流水環境の創出について

1. 太郎右衛門地区の現状

太郎右衛門地区の自然環境の保全と再生に向けた実施計画を検討するにあたり、流水環境の創出については、現況特性から以下のような課題が挙げられる。

<流水環境の創出についての課題>

- ・ 荒川本川や市野川の太郎右衛門地区付近から取水する場合、自然分派では流水環境の創出ができない。
- ・ 荒川本川や市野川の上流から自然分派による取水をする場合、長い導水路が必要となり、水路や工作物と多く交差する。
- ・ 市野川の総窒素、総リンは特に高く、市野川付近でカビ臭原因物質濃度が高くなっている。
- ・ 荒川本川、市野川から取水する場合、既得水利権との調整が必要である。

<考えられる取水方法の課題>

取水方法	取水地点	課題
荒川本川から取水	①上流1 (63.2k地点)	・ 本川からの分派施設、延長約10kmの導水路が必要となる。 <u>導水路は、水路や工作物と多く交差する。</u>
	②上流2 (59.2k地点)	・ 本川に大規模な堰が必要(堰高:②約6.5m、③約9.0m)。 ・ 堰により本川水面に不連続が生じ、魚類の移動ができない。そのため連続性確保のための対策が必要。
	③太郎右衛門地区付近	・ 堰の上流側に湛水区間が生じ、水位が上がる。樋管等の施設が影響を受ける。
ポンプアップ	④太郎右衛門地区付近	・ <u>自然の営力のみで取水ができない。</u> ・ 電気料等の維持管理費がかかる。
市野川から取水	⑤市野川上流 (8.0k地点)	・ 市野川からの分派施設、延長約9kmの導水路が必要となる。 <u>導水路は、水路や工作物と多く交差する。</u> ・ <u>市野川の水質により、富栄養化が発生する可能性がある。</u>
	ポンプアップ	⑥神明堰 ・ <u>市野川の水質により、富栄養化が発生する可能性がある。</u> ・ <u>自然の営力のみで取水ができない。</u> ・ 電気料等の維持管理費がかかる。

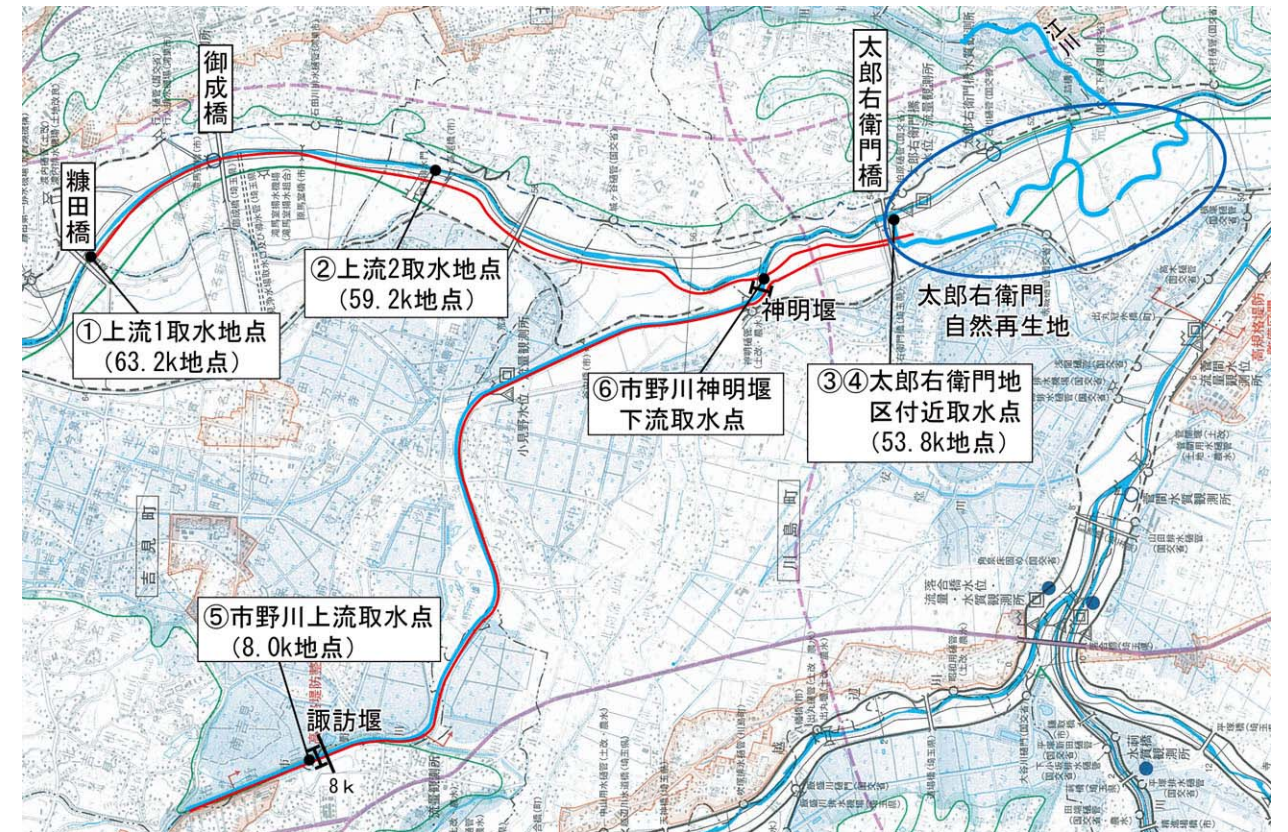
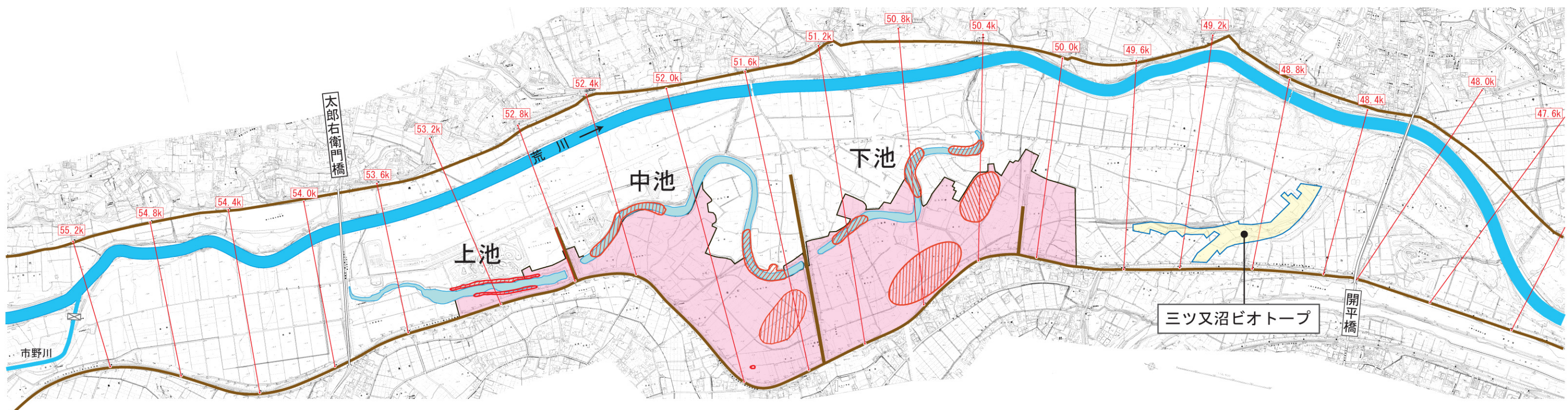


図-1 取水地点位置図

2. 当面の実施計画作成の提案

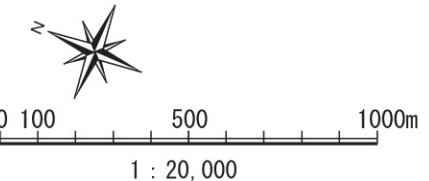
- ・ 流水環境創出にあたっては、水源、取水方法、水量、水質等の多くの課題があり、十分な検討が必要である。
- ・ 止水環境及び湿地環境の拡大など、先行して実施可能な施策もある。
- ・ 実際の整備のインパクトによる物理環境の変化と、その変化が生物・生態系に及ぼす影響については、十分な知見が得られていないことが多い状況である。

→早期に実施可能な内容で当面の実施計画を作成する。今後の状況の変化や実施箇所のモニタリング調査の結果を踏まえて、流水環境の創出へ移行していく方法を提案する。



現況平面図

凡 例	
	保全難易度Aランクの種が確認された区域
	保全難易度Bランクの種が点在する区域



《基本的考え方》

- ・現状の良好な自然環境を保全しつつ、少しずつ止水環境、湿地環境を拡大する。
- ・モニタリングにより給水や地盤切下げによる効果、影響についての知見を蓄積し、計画の見直しを含め、以後の整備に反映させる。



湿地環境イメージ

⑤維持管理

⑥モニタリング

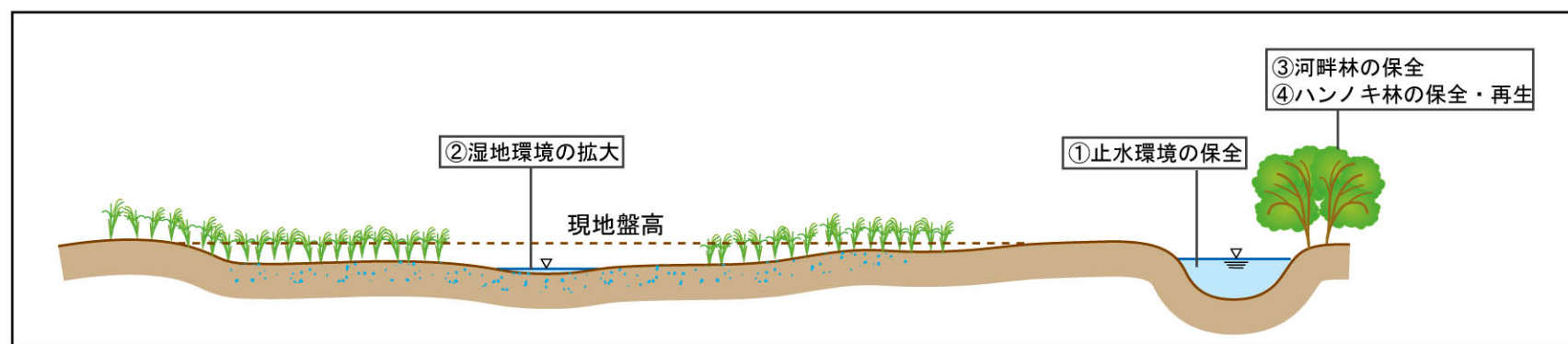
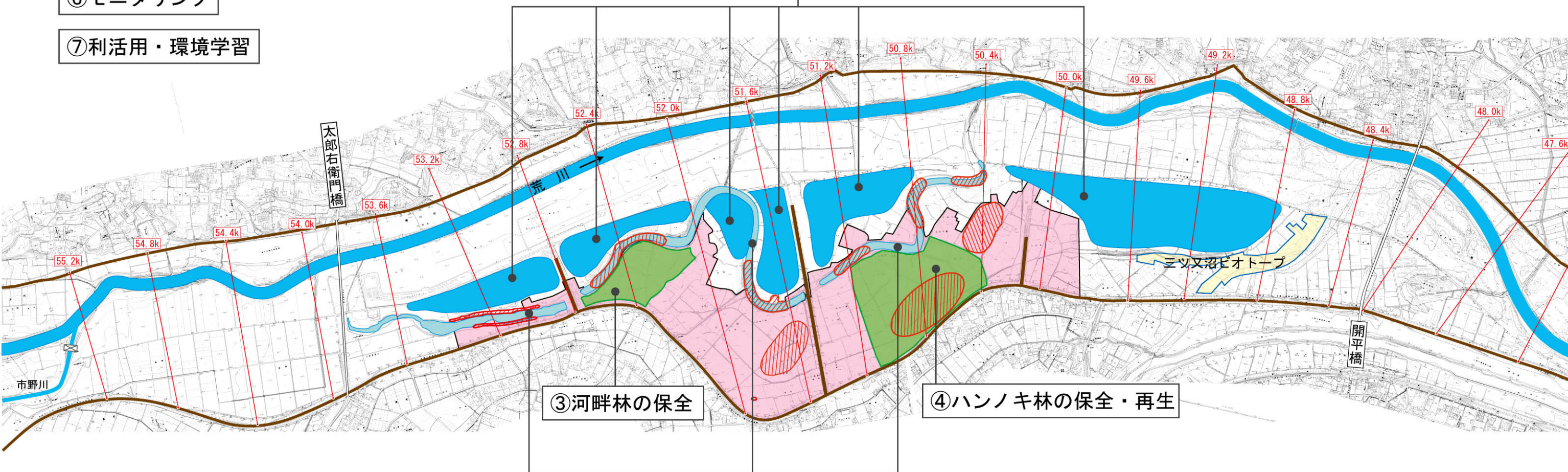
⑦利活用・環境学習

②湿地環境の拡大

①止水環境の保全

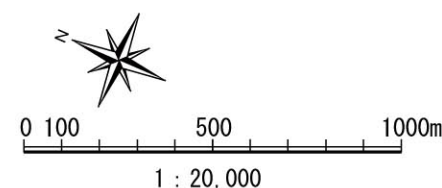
③河畔林の保全

④ハンノキ林の保全・再生



整備イメージ図：当面の実施計画（案）

凡 例	
	保全難易度Aランクの種が確認された区域
	保全難易度Bランクの種が点在する区域



※本資料は現時点で考えられる整備メニュー（案）を示したものであり、各整備メニューの詳細は第20回協議会以降で議論する。